

Q&A 10問10答

- Q1** 自分の性格をひと言で言い表すと？
どちらかというと慎重なタイプ
- Q2** 弱点を1つ教えてください。
大胆さが無い
- Q3** 最近うれしかったことは？
旅行で北海道に行き、自然の風景やいろんな野生の動物を見られたこと
- Q4** 今はまっているものはありますか？
お手伝い程度ではあるが、ガーデニングでの野菜づくりが楽しい
- Q5** タイムマシンがあったら行きたいのは過去？ 未来？
未来。世の中がどうなっているのか知りたい。
- Q6** 人生で最も影響を受けた人は？
専門領域へ導いていただいた医師
- Q7** 日課はありますか？
朝、コーヒーを飲みながらのメールチェック
- Q8** 人生最後に食べたいものは？
アイスクリーム
- Q9** 今一番会いたい人は誰ですか？
松下幸之助さん
- Q10** 病院トップとしてふざかしい素養は？
病院の中・外の情報を多方面から集め、横断的に連携・調整できること

●パナソニック健康保険組合 松下記念病院 医の高い倫理性や人間愛を尊重した医療をめざす

地域医療支援病院および大阪府がん診療拠点病院の指定を受け、地域に根ざした高度な急性期医療を行っている。安心・安全な医療を提供し、患者さんや職員から選ばれる病院をめざす



村田 以上地域に根ざした病院にしていけないといけません。患者さんからも働く人からも選ばれる病院をめざしています。そのためにはどうすればいいか、そのことを日々考えています。

大阪府北部の北河内二次医療圏は7つの市で構成されていますが、公立・公的病院は少なく、当院は「地域医療支援病院」、「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受け、幅広い診療に対応できる総合病院として「市民病院」的な役割が求められています。提供する医療サービスについても、患者さんの満足度をいかに上げていくかを重視しています。

地域の人からはパナソニック関係者の病院という印象が強かったのですが、自分たちのやっていることを地域にしっかりと認識してもらえよう広報活動にも力を入れています。5月に開催したオープンホスピタル「来て！見て！体験！松下記念病院わくわくフェスタ2025」では、約2100人が来場してくださいました。

職員が働きがいと誇りをもてる職場環境の整備にも注力しています。働き方改革や業務の効率化にも率先して取り組み、職員のモチベーションを上げるためにも、スタッフから病院を良くするための提案が出てくれば、できる限り応えていくようにしています。

今後の目標を聞かせてください

村田 現在の病院は築約40年となり、老朽化が目立つようになってきています。

現在、門真市のパナソニックの敷地内への移転計画を進めています。限られた予算のなか、物価高も影響し、さまざまな制約もありますが、現状の病床をキープしつつ、どのように病院機能を強化していくかを考えていかななくてはなりません。一方、職員からの新病院への期待も大きなものがあります。全職員から意見を集め、移転事業には、次世代を担う人たちに中心にかかわってもらい、みんなの理想を盛り込んだ病院になればと期待しています。

現状の深刻な課題は、苦しい経

営状況への対応です。人件費や材料費などの高騰は厳しいものがあります。また、急速に進む高齢化や新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ変化への対応も必要です。

地域医療を総合的に支え、患者さんや職員から選ばれる病院をめざしながら、日々の診療だけでなく、将来設計も現場の職員とともに考えていきたいと思っています。

松下記念病院とのかかわりについて教えてください。

村田 2011年から整形外科骨軟部腫瘍外科部長として勤務しています。その後、整形外科部長、副院長となり、20年に病院長に就任しました。当時、自分より年長者の副院長が複数人いましたので、まさか自分が病院長になるとは思ってもみませんでした。

今では病院長業務というものがわかってきた気がしますが、就任したタイミングでコロナ禍となり、そのときは目の前の問題に対応することで精一杯でした。

病院長になっても臨床を大事にされているんですね。

村田 臨床現場には継続して出たいという思いがあり、外来診療や手術も行っています。病院長になってからは時間的な制約が大きくなりましたが、現場を知らないといまがられているかもしれないので、できるだけ現場に顔を出すようにしています。現場の課題を自分の目でも実際に見たいと考えています。

病院長として心がけておられることはありますか。

村田 話を聞くことを含め、人とかかわり方に意識を注力しています。病院という組織は医師が主導で動かしていく側面がありますが、これからの時代は、それだけではうまく回っていかないと認識しています。各職種の人たちはそれぞれの部門のプロであり、それぞれの専門性を尊重し、意見を出しやすいような環境をつくるのが大事だと考えています。

すべてをトップダウンでやっていくのには無理があり、働いている人たちの気持ちに沿っていないものであればうまく進みません。

できるだけ現場に任せて、いろいろ提案を出してもらい、病院長は最終的な判断だけを行っていくやり方がいいのではないのでしょうか。

通常、現場の意見は各所属長を通して段階を踏んで上層部に上がってきます。ただ、なかには時間がかかりすぎて非効率であったり、途中で消えてしまったりもします。現場の声を直接聞いたほうが判断しやすい場合もあり、間口を広げ、誰でも病院長に直接話やメールができるような環境に変えていきました。

病院の運営について力を入れ



PROFILE

むらた・ひろあき ●1991年京都府立医科大学卒。同大学整形外科入局。骨軟部腫瘍、関節外科、骨粗しょう症などを専門として大学、関連病院で臨床や研究に打ち込む。2011年から松下記念病院勤務、20年から病院長に就任。病院長職をこなしながら、「現場を知ることが重要」と考え、整形外科医、腫瘍の専門医師としても手術や外来を担当している。

「この病院へ行きたい」「この病院で働きたい」が理想